2021 年 2 月 18 日

PhillipCapital
Your Partner In Finance

フィリップ証券株式会社

バンク・セントラル・アジア（BBCA）

シャリア（イスラム金融）経済拡大を目指す政府方針の下、国営銀行との競争によるシャリア市場拡大の恩恵へ

インドネシア | 銀行 | 業績フォロー

BLOOMBERG BBCA:IJ | REUTERS BBCA:IJ

- 2020/12 通期は、総収益が前期比 5.1%増、貸倒引当金繰入額が同 2.5 倍、当期利益が同 5.0%減。4Q の前四半期比も増収減益だった。
- 純金利収益は、通期の前期比、4Q の前四半期比ともに増収。非金利収益は、通期は前期比減収だが、4Q の前四半期比は増収だった。
- シャリア（イスラム金融）経済拡大を目指す政府方針の下、中長期的に国営銀行との競争によるシャリア市場拡大の恩恵を受けよう。

What is the news？

2/8発表の2020/12通期は、総収益が前期比5.1%増の74.75兆IDR、総費用が同3.1%減の29.33兆IDR、貸倒引当金繰入額が同2.5倍の11.60兆IDR、当期利益が同5.0%減の27.13兆IDR。純金利収益が堅調に伸びたほか経費率が同6.3%ポイント改善低下したものの、貸倒引当金繰入額が嵩んだことが響き最終減益となった。一方、4Q（10-12月）の前四半期比は、総収益が3.0%増、総費用が22.9%増、貸倒引当金繰入額が5.2%減、純利益が9.0%減と、不良債権処理に係る与信環境は改善したものの昨年9月に買収を完了したオランダ系のラボバンク・インドネシアに関連した費用増が減益に響いた。また、貸出の質は、不良債権比率（グロス）が前四半期比0.1%ポイント改善低下の1.8%、不良債権に対する引当金カバレッジ・レシオが同17.4%ポイント引き上げられて260.9%となった。

総収益の内訳は以下の通り。①純金利収益は、通期が前期比 7.3%増の 54.54 兆 IDR。純金利マージン（NIM）が同 0.5%ポイント低下（5.7%）だったが、平均貸出残高が同 4.7%増だったことが増収に寄与した。4Q の前四半期比は 1.4%増だった。②非金利収益は、通期が前期比 0.5%減の 20.21 兆 IDR。トレーディング損益は同 26.0%増と伸びたが、主力の手数料・コミッション減収が響いた。4Q の前四半期比は、トレーディング損益の減収を手数料・コミッション収益増で補い 7.5%増収だった。

How do we view this？

同社は費用の高い営業店取引からデジタルチャネルへの移行を促している。インターネットバンキング取引金額は、2020/12 通期が前期比 5.7%増、4Q が前四半期比 13.3%増となったほか、モバイルバンキング取引金額は、同通期が前期比 28.9%増、4Q が前四半期比 15.6%増と拡大。

また、ジョコ大統領が「インドネシアは、世界で最もイスラム教徒の人口が多い国だ。シャリア（イスラム金融）経済の発展の面でも先進国の 1 つになる時が来た」と述べるなど、インドネシア政府がシャリアの分野でイスラム経済世界首位のマレーシアを追いかける国策の下、同行はラボバンク・インドネシアのシャリア部門との統合を計画している。今年 2 月に国営 3 行がシャリア部門を統合し国営銀行のバンク・シャリア・インドネシアが発足し、競争によって国内シャリア市場の活性化と拡大が期待され、中長期的に同行への追い風になると見込まれよう。

業績推移　※参考レート 1IDR=0.0075円

事業年度	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12F	2022/12F
当期利益(十億IDR)	25,855	28,565	27,131	31,438	36,742
EPS(IDR)	1,049.00	1,159.00	1,100.00	1,270.22	1,476.74
PER（倍）	32.41	29.34	30.91	26.77	23.02
BPS(IDR)	6,151.27	7,059.13	7,487.17	8,246.22	9,156.14
PBR（倍）	5.53	4.82	4.54	4.12	3.71
配当(IDR)	340.00	555.00	（未定）	487.02	590.88
配当利回り（%）	1.00	1.63	-	1.43	1.74

（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg）

配当予想(IDR)	487.02	（予想はBloomberg）
終値(IDR)	33,675	2021/2/18

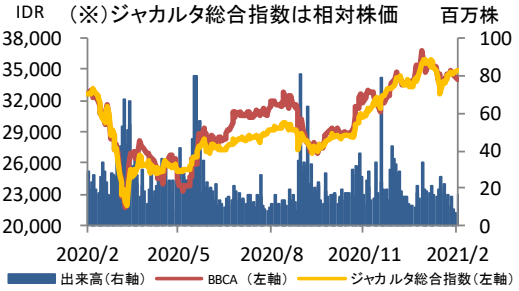
会社概要

1957年に設立されたインドネシアの大手商業銀行の一つ。1998年のアジア通貨危機の際、国有化され、インドネシア銀行再建庁（IBRA）のもと資本増強・リストラに取り組んだ。その後2000年に再上場を果たした。トランザクションバンキングに重点を置いており、大企業、中小・零細企業、消費者向けに貸出など金融サービスを提供している。2021年1月末時点で、米国上場のシンガポールのIT企業シーを除けば、時価総額でアセアン首位を占める。

主要な子会社には、香港で金銭貸付や送金を行うBCAファイナンス、シャリアバンキングを行うBCAシャリアバンク、有価証券の委託売買、引受・売出しを行うBCA Sekuritas、主に損害保険を手掛けるBCA Asuransi Umum、運転資金ローンや多目的ローン、オペレーティング・リースなどを提供するCentral Santosa Finance、ベンチャーキャピタルのCentral Capital Venturaなどがある。

企業データ（2021/2/18）

ベータ値	1.07
時価総額（十億IDR）	838,270
企業価値=EV（十億IDR）	-
3ヵ月平均売買代金（十億IDR）	657.3



（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

主要株主（2021/2）

	（%）
1.PT DWIMURIA INVESTAMA ANDALAN	54.94
2.VANGUARD GROUP	1.74
3.JPﾓﾙｶﾞﾝ･ﾁｪｰｽ･ｱﾝﾄﾞ･ｶﾝﾊﾟﾆｰ	1.60

（出所:Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

アナリスト
笹木 和弘
kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】
本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社　〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 4 番 2 号
TEL:03-3666-2101　　URL：http://www.phillip.co.jp/
本レポートの作成者：公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘
リサーチ部　李　一承

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

＜日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則　平 14.1.25」に基づく告知事項＞
・ 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。